

知床硫黄山の火山活動解説資料（平成24年6月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 火口や噴気の状況（図1～4）

26日に国土交通省北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。山頂部及び北西側中腹の爆裂火口では噴気は確認されませんでした。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、北西側中腹の爆裂火口で弱い地熱域が認められ、これまで(前回：2011年10月)と比較して、地熱域の拡大や温度上昇傾向は見られませんでした。

また、カムイワッカ河口付近の海岸には、北西側中腹の爆裂火口から湧出した温泉水による変色域が確認されました。

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図1 知床硫黄山 周辺図と赤外熱映像及び写真の撮影方向（矢印）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.sapporo-jma.go.jp>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

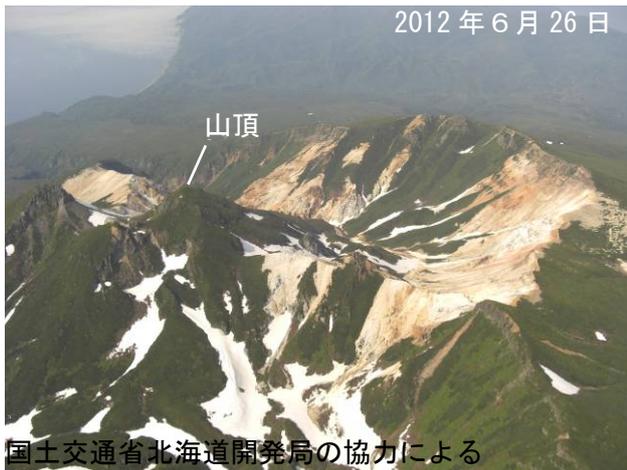


図2 知床硫黄山 山頂周辺の状況
南西側上空（図1の①方向）から撮影



図3 知床硫黄山 カムイワッカ川から流出した温泉による変色水の状態
北西側上空（図1の②方向）から撮影

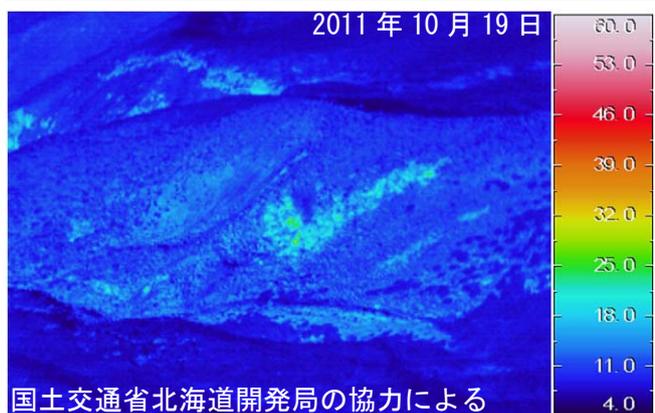
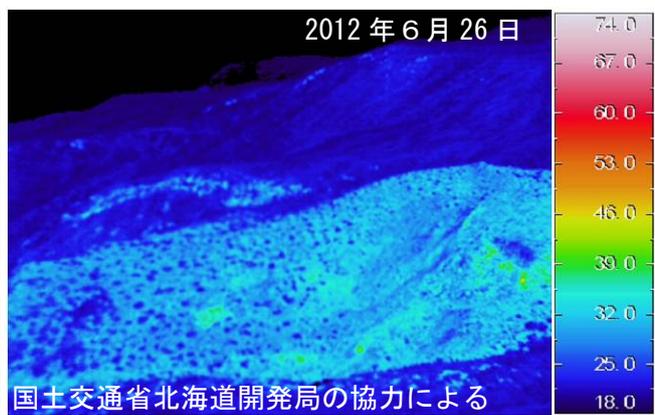


図4 知床硫黄山 北西側中腹の爆裂火口の地表面温度分布
南西側上空（図1の③方向）から撮影